



2023年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年11月14日

上場会社名 株式会社あさくま 上場取引所 東
コード番号 7678 URL <https://www.asakuma.co.jp>
代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)廣田 陽一
問合せ先責任者 (役職名)取締役管理部長 (氏名)西尾 すみ子 (TEL)052(800)7781
四半期報告書提出予定日 2022年11月14日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年3月期第2四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	2,935	20.2	△29	—	△60	—	△73	—
2022年3月期第2四半期	2,441	△22.5	△258	—	257	—	203	—

(注) 包括利益 2023年3月期第2四半期 △73百万円 (—%) 2022年3月期第2四半期 203百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	△13.87	—
2022年3月期第2四半期	38.25	38.16

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第2四半期	3,151	2,308	73.2
2022年3月期	3,876	2,412	62.2

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 2,308百万円 2022年3月期 2,412百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年3月期	—	0.00	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,069	15.6	△9	—	△38	—	△80	—	△15.08

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

連結業績予想の修正については、本日(2022年11月14日)公表いたしました「営業外費用の計上、及び2023年3月期第2四半期業績の前期実績値との差異、並びに2023年3月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P.10「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2023年3月期2Q	5,378,770株	2022年3月期	5,377,070株
2023年3月期2Q	70,629株	2022年3月期	50,549株
2023年3月期2Q	5,317,377株	2022年3月期2Q	5,325,721株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(会計方針の変更)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における当社グループの取組みといたしましては、当社の来店客数が新型コロナウイルス禍直前の2020年3月期と比べ70%台で推移していることから、集客課題を抽出し改善に努めております。

1つ目に、新型コロナウイルス禍において経費削減を行う中で、人件費カットを進めてまいりました。目指す姿としては、店舗人員を少なくしながらも今までよりも良いサービスを提供し、お客様から、「サービスがサービスが良くなったね」、と言っていただくことです。しかし、そのためのトレーニングが追いついておらず、店舗のサービスについてのクレームを多くいただくようになってしまいました。これが来店客数の戻りが悪い原因ではないかと考えました。その対策として、①チェック表を用いきちんとした身だしなみを整えること、②店舗入口でのお迎えやお見送りの対応に意識して取り組むこと、③お客様をきちんとお迎えする体制をとること、に取り組ましました。また、お客様より特に指摘をいただきましたサラダバーの補充やお済みの食器類の引き揚げ（パッシング）を徹底して行っていくことことで、「お客様を待たせない」、「不満足を与えない」を目指して取り組んでおります。商品品質の改善につきましては、毎月エリアマネージャーを集め、調理方法のチェックを行い、それに基づいたトレーニングを実施し、調理方法、仕入れ先、食材の見直し等を行いました。今後は店長も集め、調理トレーニングを継続して行っていくことで、どこの店舗でも同じ品質の商品が提供できるようにしてまいります。クリーンネス（清潔さ）の改善につきましては、特に店頭とサラダバー周辺の清掃に注力し、全店舗実施したことで、お客様からいただいております厳しいご指摘の声も半減しました。また、エリアマネージャーに対し、臨店時に上記事項がきちんと出来ているのかのチェックを行うこと、裏付けをとることを徹底して行い、そのトレーニングを随時実施してまいりました。

2つ目に、新型コロナウイルス禍において不特定多数の方が触れてしまうサラダバーが嫌われてしまっているのではないかと考え、一部店舗において、ご自身で取りに行くサラダバーではなく、食べ放題ではありますが、テーブルにお持ちするスタイルのオーダーバイキング方式で提供するようにして、客数が戻ってくるのかを実験的に行ってまいります。「サラダバーの補充ができていない」、「周りが汚れている」、「サラダの鮮度が良くない」等、サラダバーにおいての課題を、注文が入ってから提供することで、より安心して好きなものを好きなだけ食べられるようにしてまいります。

3つ目に、強力なマグネット商品となる商品の開発を行いました。連結子会社である株式会社あさくまサクセッションが運営するワヤン・バリ六本木店では、ランチタイムの目玉商品として、240グラムのハンバーグにライス及びスープ、ドリンクも付いた“ジャワハンバーグ”を税込980円で販売いたしました。粗利益率は通常の商品と比べ著しく低いですが、量でも価格でもお客様に驚いてもらう商品を提供することで、ランチタイムの客数が大幅に増え、2020年3月期第2四半期累計期間を超える売上高となっております。当社においても、マグネット商品を作り新規顧客層の拡大に取り組ましました。一部店舗のみで販売しておりました見た目にも迫力のある300グラムの“BIGハンバーグ”サラダバー付きを税抜1,380円にて、全てのお客様におなか一杯食べてもらうため、全店舗に広げて販売を開始しました。一部店舗においては、250グラムの“ぶつ切りステーキ”サラダバー付きを税抜1,380円にて販売しております。また、ハンバーグの上に具を山盛りに盛り付けた“もりもりハンバーグ”サラダバー付きで税抜1,380円の販売を全店舗にて行い、サラダバーだけでなくお肉でも低価格でおなか一杯になってもらえるメニューの開発、提供を行いました。低価格・高原価率の商品の販売だけではなく、改めて、「ステーキといえばあさくま」と言われることを目指し、①アメリカでの格付けで最高ランクであるプライムランクの“リブアイ・ステーキ”を期間限定で販売、②一時グランドメニューからなくなり、お客様からまた食べたいと言われておりましたテンダーロインステーキを週末や期間限定で一部の店舗にて販売再開、③毎月の肉の日（29日）では、鉄板からはみ出しそうな1ポンド（453グラム）の厚切りサーロインステーキを販売するなど、メリハリのある商品・価格での商品政策を行っております。フェア商品におきましては、改めてすべてのスタッフがお客様に“商品の魅力をきちんと伝えられるようになる”をゴールにセールトレーニングを実施したことで、提供率が3倍になりました。また、どこの店舗でも、お客様にご利用してもらいやすくするために、一部のメニューに絞っていた店舗におきましても、他の店舗同様すべてのメニューを注文できるように変更いたしました。

新社長の下、これらの取組みを行ってまいりましたがまだ結果が伴わず、当社グループの当第2四半期連結累計期間における業績は、売上高が2,935,863千円（前年同四半期比20.2%増）、営業損失が29,918千円（前年同四半期は営業損失258,493千円）、経常損失が60,493千円（前年同四半期は経常利益257,078千円）、親会社株主に帰属する四半期純損失が73,761千円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純利益203,700千円）となりました。

また、当第2四半期連結累計期間における店舗展開につきましては、当社グループにおいて変動はなく、当第2四半期連結会計期間末現在における当社の店舗数は、直営店61店舗にF C店5店舗を加えて66店舗、株式会社あさくまサクセッションの直営店は10店舗で、当社グループの総店舗数は76店舗（F C店5店舗を含む）となっております。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて679,229千円減少し、1,971,256千円となりました。主な要因は現金及び預金で465,874千円、未収入金で176,623千円それぞれ減少したことによります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて45,999千円減少し、1,180,190千円となりました。主な要因は有形固定資産で31,508千円減少したことによります。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて725,229千円減少し、3,151,446千円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて547,118千円減少し、641,304千円となりました。主な要因は短期借入金で250,000千円、1年内返済予定の長期借入金で74,048千円、未払法人税等で138,548千円それぞれ減少したことによります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて74,142千円減少し、201,738千円となりました。主な要因は長期借入金で74,142千円減少したことによります。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて621,260千円減少し、843,042千円となりました。

(純資産)

純資産は、前連結会計年度末に比べて103,969千円減少し、2,308,403千円となりました。主な要因は利益剰余金で73,761千円減少したこと、自己株式で30,722千円増加したことによります。

この結果、自己資本比率は73.2%（前連結会計年度末は62.2%）となりました。

②キャッシュ・フローの状況

第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物の残高は1,531,218千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、得られた資金は87,261千円となりました。これは主に、税金等調整前四半期純損失58,693千円、減価償却費39,347千円、仕入債務の増減額53,657千円、法人税等の支払額162,641千円、助成金の受取額147,901千円を計上したこと等によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、使用した資金は124,739千円となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出125,053千円、差入保証金の回収10,214千円を計上したこと等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、使用した資金は428,397千円となりました。これは主に、短期借入金の返済による支出250,000千円、長期借入金の返済による支出148,190千円、自己株式の取得による支出30,722千円を計上したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期の連結業績予想については、当第2四半期までの実績と足元の市場環境等の動向を勘案し、2022年6月10日公表いたしました通期の連結業績予想を変更しております。

詳細につきましては、本日(2022年11月14日)公表いたしました「営業外費用の計上、及び2023年3月期第2四半期業績の前期実績値との差異、並びに2023年3月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,997,093	1,531,218
売掛金	258,935	235,483
原材料及び貯蔵品	26,800	34,178
未収入金	303,824	127,200
その他	63,831	43,175
流動資産合計	2,650,486	1,971,256
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	369,693	419,048
その他(純額)	263,508	182,644
有形固定資産合計	633,202	601,693
無形固定資産		
その他	31,888	30,404
無形固定資産合計	31,888	30,404
投資その他の資産		
破産更生債権等	812,892	812,892
差入保証金	475,764	465,103
その他	90,335	87,988
貸倒引当金	△817,892	△817,892
投資その他の資産合計	561,099	548,092
固定資産合計	1,226,189	1,180,190
資産合計	3,876,675	3,151,446

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	286,145	339,802
短期借入金	250,000	—
1年内返済予定の長期借入金	83,880	9,832
未払法人税等	153,305	14,757
賞与引当金	12,885	15,827
株主優待引当金	17,804	9,826
その他	384,403	251,259
流動負債合計	1,188,423	641,304
固定負債		
長期借入金	173,950	99,808
資産除去債務	78,230	78,230
その他	23,700	23,700
固定負債合計	275,880	201,738
負債合計	1,464,303	843,042
純資産の部		
株主資本		
資本金	90,124	90,381
資本剰余金	1,710,362	1,710,620
利益剰余金	687,592	613,830
自己株式	△75,706	△106,429
株主資本合計	2,412,372	2,308,403
純資産合計	2,412,372	2,308,403
負債純資産合計	3,876,675	3,151,446

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上高	2,441,602	2,935,863
売上原価	1,045,783	1,184,854
売上総利益	1,395,819	1,751,009
販売費及び一般管理費	1,654,313	1,780,927
営業損失(△)	△258,493	△29,918
営業外収益		
受取利息及び配当金	9	10
協賛金収入	6,257	1,593
助成金収入	507,470	2,512
その他	6,243	5,785
営業外収益合計	519,981	9,902
営業外費用		
支払利息	2,805	1,843
助成金減額損	—	37,942
その他	1,603	690
営業外費用合計	4,409	40,477
経常利益又は経常損失(△)	257,078	△60,493
特別利益		
圧縮未決算特別勘定戻入額	—	13,499
固定資産売却益	8,309	—
補助金収入	15,077	—
資産除去債務戻入益	12,693	—
その他	2,256	—
特別利益合計	38,336	13,499
特別損失		
店舗休止損失	8,064	—
店舗閉鎖損失	9,713	9,900
その他	3,000	1,800
特別損失合計	20,777	11,700
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	274,637	△58,693
法人税、住民税及び事業税	70,936	15,068
法人税等合計	70,936	15,068
四半期純利益又は四半期純損失(△)	203,700	△73,761
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	203,700	△73,761

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	203,700	△73,761
四半期包括利益	203,700	△73,761
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	203,700	△73,761

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	274,637	△58,693
減価償却費	60,161	39,347
助成金収入	△507,470	△2,512
助成金減額損	—	37,942
補助金収入	△15,077	—
資産除去債務戻入益	△12,693	—
圧縮未決算特別勘定戻入額	—	△13,499
店舗閉鎖損失	9,713	9,900
賞与引当金の増減額(△は減少)	812	2,941
株主優待引当金の増減額(△は減少)	△7,408	△7,977
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△60	—
受取利息及び受取配当金	△9	△10
支払利息	2,805	1,843
売上債権の増減額(△は増加)	63,495	23,452
棚卸資産の増減額(△は増加)	△3,208	△7,377
仕入債務の増減額(△は減少)	△25,119	53,657
未払消費税等の増減額(△は減少)	10,068	14,599
その他	28,820	10,351
小計	△120,531	103,964
利息及び配当金の受取額	9	10
利息の支払額	△2,805	△1,973
法人税等の支払額	△17,999	△162,641
助成金の受取額	170,781	147,901
補助金の受取額	3,783	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	33,238	87,261
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△3,105	△125,053
有形固定資産の売却による収入	3,724	—
差入保証金の差入による支出	△63	—
差入保証金の回収による収入	16,884	10,214
資産除去債務の履行による支出	△15,272	△9,900
その他	655	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,823	△124,739
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	150,000	—
短期借入金の返済による支出	△250,000	△250,000
長期借入金の返済による支出	△129,630	△148,190
新株予約権の行使による株式の発行による収入	—	515
自己株式の取得による支出	—	△30,722
財務活動によるキャッシュ・フロー	△229,630	△428,397
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△193,567	△465,874
現金及び現金同等物の期首残高	1,825,078	1,997,093
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△13,422	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,618,088	1,531,218

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2022年7月12日開催の取締役会決議に基づき、自己株式20,000株の取得を行いました。この結果、当第2四半期連結累計期間において自己株式が30,600千円増加したこと等により、当第2四半期連結会計期間末において自己株式が106,429千円となっております。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

当社グループは、飲食事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。